

# 令和2年度第3回上尾・伊奈ごみ処理広域化検討会議

## 要点議事録

日時：令和3年3月30日（火）14:00～

場所：上尾市文化センター301集会室

## 次 第

### 1 開 会

### 2 会長あいさつ

### 3 議題

#### (1) 質問票等への回答

事務局 資料1に基づき、説明

※質問なし

#### (2) 両市町のごみ量について

事務局 資料2に基づき、説明

委員 上尾市のごみ量について、直近の5年間ということだが、その中で、事業系と家庭系のごみ量が反比例しているが、反比例となる見込み要因は。

また、それ以前の5年間の数値を調査したものがあれば、教えてほしい。

事務局 上尾市においては、平成26、27年度から事業系ごみに対して、受入の確認強化をしたことでかなり減少傾向が見られた。ただ、少しリバウンド傾向があり、平成30、31年度と増加したことが見込まれる。

また、平成31年度に一般廃棄物が大幅に増加した要因として、平成31年10月の台風の影響で事業系ごみの災害廃棄物が、通常は産業廃棄物になるところ、災害で廃棄物になったものは一般廃棄物という扱いで環境センターに持ち込まれたことが考えられる。

それ以前の5年間におけるごみ量については、また次の機会にて示す予定。

副会長 上尾市で事業系ごみが減っている状況だが、伊奈町でも事業系ごみに関する取組があるのか。

事務局 事業系ごみの処理手数料を値上げしているが、より効果的な策を打っていない。

委員 事業系ごみについて、上尾市と伊奈町で工場数の違いがあるからではないのか。また、伊奈町はプラスチックを分別しているから生活ごみが少なく、上尾市は可燃ごみに含めているから生活ごみが多くなっているのか。それから、ごみ処理にかかる原単位での処理費用はどれくらいなのか。

事務局 次回の会議にて示す予定。

また、資料における上尾市の家庭系ごみの数値にはプラスチックごみが計上されている。

副会長 上尾市の場合、事業系のごみにおける資源になるものについては、徹底的に分けている。

また、工場のごみについては、産業廃棄物になるため、ごみ処理施設に入らず、商店のような小さなお店のごみが影響している可能性がある。

会長 市町村では、事業所では処理しきれない事業所のごみを処理しているケースが多い。

### (3) ごみの分別の現状と課題について

事務局 資料3に基づき説明。

委員 この検討会議の目的は、ごみ処理施設を伊奈町と上尾市で統一したものを造るにあたって、その分別方法について議論したいということではないのか。

それから、資料の4ページからは、「○」や「△」がついているが、これを点数化すれば、プラスチック製容器包装以外は、両市町で多少の違いはあっても調整ができるのではないのか。問題はプラスチックであり、上尾市は燃やしているが、伊奈町はリサイクルしている。ここをしっかりと議論する必要がある。

3点目で、リサイクルというのは一体どういうことがあるのか。発生したプラスチックが例えば10とすれば、幾つぐらいがどのようにリサイクルされているのかを知りたい。その中身が見えないと、なかなか判断しがたいところがある。

つまり、議論を絞ってやったらどうか。

事務局 新たなごみ処理施設を統一して1か所造るにあたり、ごみの分別、それから収集体制についても統一を図る。その上で、行政の職員だけで決めるのではなく、住民の方の意見を聞きながら決めるというのが、今回の会議の目的である。

2点目について、点数化は実施できるかどうか検討しなくてはいけない。また、プラスチックごみについてのウエイトが大きいことから委員の意見を頂戴したい。

3点目については、伊奈町ではプラスチック製容器包装をリサイクルしており、容器包装リサイクル協会に排出している。また、プラスチック製容器包装の年間での搬入量は約1,000トン、そのうち資源化された量については約490トンである。

会長 いわゆる容器包装リサイクル法では、プラスチック製容器包装はリサイクルしようということになっている。容器包装リサイクル協会の持っている拠点まで持っていくのは市町村の義務であり、容器包装リサイクル協会がリサイクルをして、その費用を事業者から取るという形になる。容器包装リサイクル法のプラスチックについては全てリサイクルするという努力義務が課せられているが、容器包装リサイクル法の対象となっていない製品プラスチックがあるため、非常に複雑である。

なかなか全体像が見えてこないため、意見がほしいといわれても言えないところがある。そのため、今後どうやって結論を導き出していくのかのスケジュールを出してほしい。

事務局 第4回の会議にて素案を提示したいと考えており、素案に対する意見をもらったうえで、第5回にて収集体制について、第6回で分別収集統一の実施時期や啓発手段等について意見をもらう予定である。ただ、収集方法、リサイクルなどの解説資料みたいなものを用意するほうがよいか。

会長 今は両市町の分別の状況を把握して、その中から分別の課題を抽出して、それをどう解決していくかという素案を提示し、検討を続けることが必要である。

委員 プラスチック製容器包装として分別収集するのか、焼却してサーマルリサイクルするかは評価をみれば、結論がでているわけだが、つまり、分別してリサイクルしたいということか。

事務局 一般論として評価しているのであり、法律等では優先順位が示されているだけでプラスチックを焼却することを禁止していない。しかし、これからの環境面を考慮してコストがかかっても資源化する方向にもっていくかどうかを委員から意見を頂戴したいところである。

会長 基本原則としては、同じものを何回も繰り返して使うリユースが一番であり、そういったことができない物については、原材料に戻してもう一度製品に変えるのがマテリアルリサイクルである。それでも、処理できない場合は焼却して熱回収をするように法律では示されている。

判断するだけの資料が十分に足りていないため、検討するにあたっての現状、課題や世の中の動きについての資料を集めて示してほしい。

事務局 資料を集めて次回の会議にて示す予定である。

副会長 事務局の発言で、プラスチック製容器包装の約半分を容器包装リサイクル協会へ出しているとのことだが、残りがどうなっているかわからない。容器包装リサイクル協会で集めたマテリアルはあまりいいものができないと聞いている。この場合、焼却したほうがいいのではないか。

委員 そういう意見は多い。リサイクルと簡単に言うが、どうリサイクルされているか、その先が見えないため、どちらが良い悪いというのは判断できない。

副会長 ただ、最近では考え方も変わり、焼却するのではなく、何かしらに使おうという考え方を持たなければならないと考えている。また、日本国内にはケミカルリサイクルの需要が多らしく、そういうことも考慮しながら、今後は進める必要がある。

会長 マテリアルリサイクル、ケミカルリサイクル、サーマルリサイクルという言葉が出ているが、整理したうえで、提示する必要があると感じる。

委員 ケミカルリサイクルの技術が発展してきているという意味では、やはり分別しないといけないと考える。そのほうが、いろいろ技術が発展したときに移行しやすい。要は、プラスチック製品を使わないようにしようという流れが大きくなるのではないか。

委員 今回の広域化で大きな炉を入れるのであれば、そこへプラスチックが入るかどうかはわからないが、熱を有効活用していくことが決まっているのか。

事務局 施設については令和5年度から構想を作成予定であり、そこで決めていく予定である。ただ多くの自治体で熱回収の手法が使われていることから検討していく必要がある。

委員 サーマルは、熱で燃やす。マテリアルは分別して別のものに作り替える。ケミカルがカーボン等で有効活用するということであるが、いろいろなことをトータルで考えていかなければならない。

委員 プラスチックはとても便利で、軽量だからこれだけ進んできたのだが、使いすぎて現在負荷がかかっているところが前提であるため、プラスチックを悪者にするには少し違和感がある。そのため、プラスチックのメリット・デメリット、分別収集の手間・経費などを本当にトータルで検討すべきと考える。そこだけで完結できるような、先進的なごみ処理施設はできないのか。

会長 (会長より中央環境審議会におけるワーキンググループ合同会議による資料を提示)

プラスチックに係る資源循環促進等に関する法律案の概要としては、プラスチック廃棄物の排出抑制、再資源化に資する環境配慮設計、ワンウェイプラスチックの使用の合理化、プラスチック廃棄物の分別収集、自主回収、再資源化等について定めていくとのこと。

次に個別の措置事項で、製造事業者等が努めるべき環境配慮設計に関する指針を策定及びワンウェイプラスチック使用度が多いかということで、ワンウェイプラスチックの提供使用者、小売・サービス事業者さんが取り組むべき判断基準を策定。

また、主務大臣の指導・助言、ワンウェイプラスチックを多く提供する事業者への勧告・公表・命令・措置を行うとのこと。

市町村としては、市町村と再商品化事業者が連携して行う再商品化計画を作成し、主務大臣が認定した場合については、市区町村による選別、梱包等を省略して、再商品化事業者が再商品化を実施することができるとのこと。

色々課題はあるが、再商品化を義務化するのではなく、可能にすると書いてある。これは努力義務であって、守らなければならないというものではない。

委員 現時点での一番新しいごみ処理施設の技術がどういったものか知りたい

事務局 施設の処理方式の資料が作成できるか検討し、可能であれば提示する予定。

ただし、施設を見据えたものではなく、分別方法を決定したうえで、それに合わせた施設を検討していく方向である。

会長 上尾市にある施設をさらに高度化したものが一番新しいが、それを打ち破るような施設はない状況である。

副会長 拠点回収について、実際どれくらい集められているのか、また、どのくらい拠点があるのか、情報があればいただきたい。

委員 拠点回収もそうだが、ごみの集積場所の問題もあるため、収集の方法も少し検討していただけたらと思う。高齢化が進んでいくと重たい物を遠くまで運ぶのはとても大変である。それから、議題とは関係はないが、ごみの集積場のマナーについても分別とともに大きな問題ではないかと思うため、少し議論はずれるが意見したい。

会長 施設整備の観点では、収集などの詳細については、なかなか議論することはないが、そういった観点で清掃事業を見るのは必要なことではある、もし機会があれば、そういった資料も提供していただけたらと思う。

## 4 その他

事務局 次回の会議については、5月ぐらいを検討中。また、日程が決まり次第委員に連絡予定。

副会長 市民・町民に関心を持ってもらいたいということで事務局から相談があり、小学校4年生向けにアンケートを実施することを提案したが、いかがだろうか。

子育ての時が一番忙しいということで分別が増えるか減るかは非常に大きいですが、テレビでは環境問題について報道され、プラスチックに対しての意識をかなり持っているということでアンケートを実施してもよいのではないかと提案した。

委員 対象は小学生か、親か。

副会長 親である。

委員 集計については作業量が多いが、問題はないのか。

事務局 上尾市には小学校22校、伊奈町には小学校4校があるが、全部の学校でアンケートを実施することは難しいため、伊奈町においては1校、上尾市では2校での実施を検討している。

## 5 閉 会